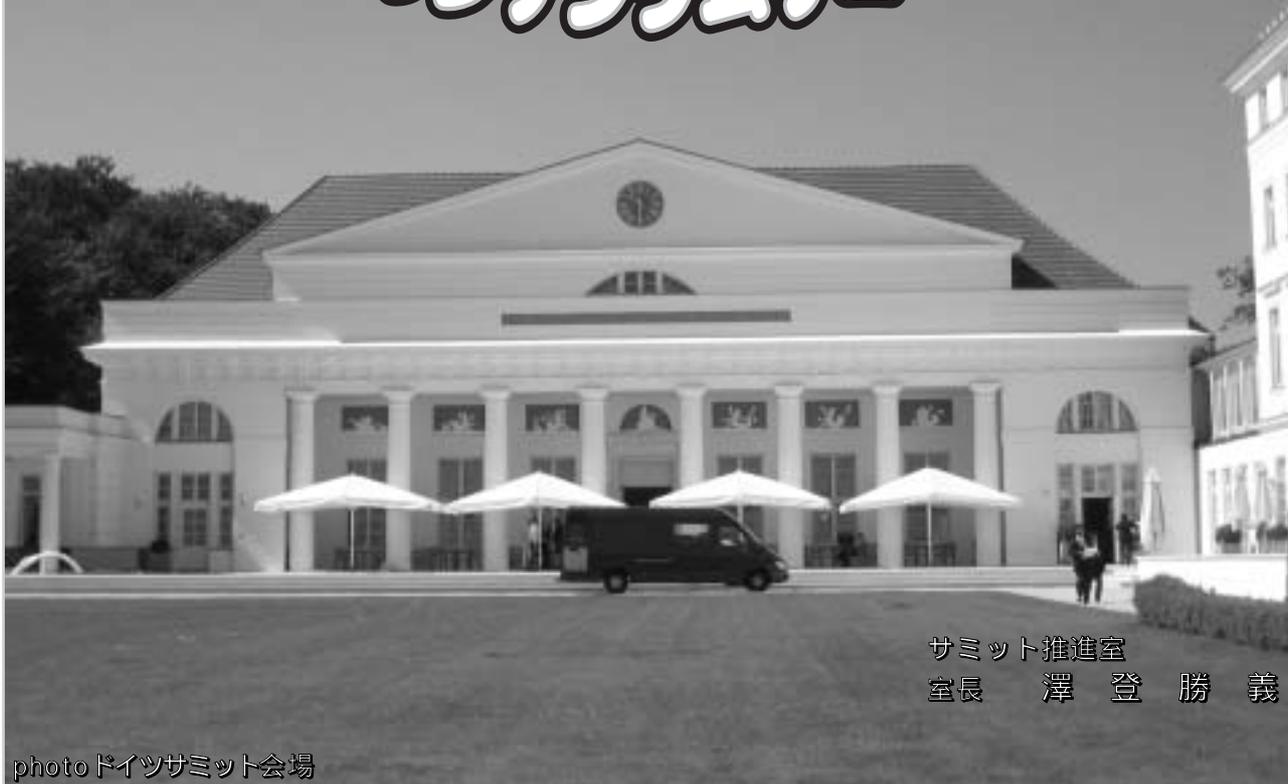


北海道洞爺湖
サミット

ドイツハイリゲンダムサミット視察から



サミット推進室
室長 澤 登 勝 義

photoドイツサミット会場

外務省からの来年度開催に向けた研修としてお誘いを受け、道職員2名（大脇・櫻井主査）と共に6月2日から12日（9日午後より、北海道訪問団と合流）までの日程で、ドイツ・ハイリゲンダムで開催されたG8（主要国首脳会議）の外務省現地本部の支援として、参加してきました。

現地では、サミット開催前の準備や期間中の緊縛した状況などを肌で感じることができました。サミットが開催された地域はドイツの北部（バルト海に面した旧東ドイツ）フオボンメルン州で州都のシユヴェリンの人口は約9万7千人であり、最も人口の多いロストック（デモ行動で報道された町）でも、約20万人となっています。

また、同州には、ヨーロッパでも最高級の保養施設が集まっており、特にバルト海岸地帯は、細かい白砂と伝統的な海水浴場、瀟洒（しょうしゃ）な建物が観光客を惹き付け、海岸リゾート地として世界中から人々が集まる保養地として有名です。

日本との時差が7時間あり、夏場は午前4時過ぎから午後10時近くまで明るくサマータイム

を楽しむ人々ににぎわいを見せたいですが、冬期間は午後3時過ぎから午前10時頃まで暗いとのことでした。

ドイツサミットの 論議内容

サミット自体の開催期間は3日間ですが、G8首脳会議の他に、各国の2国間会談や新興諸国（中国・インド・ブラジルなど）・アフリカ諸国（エジプト・南アフリカ・アルジェリアなど）なども参加しての会議が開かれました。主要なテーマは、投資、イノベーション（技術革新・経営革新）、持続可能な発展などで、特にアフリカについては、ガバナンス（企業統治）、安定的な投資、安全保障などについて議論されました。

日本からは安倍首相が、環境問題を重点に発言を行い、アメリカとの協議の中ではCO2削減に向けた取組みに成果を上げました。来年の北海道洞爺湖サミット開催では、この環境問題が主要議題に位置づけられ、更なる前進が期待される場所です。

重要な会談の会場となる周辺は幾重もの厳重な警戒体制がひ